

第3学年 道徳学習指導案

平成27年10月9日(金) 第5校時

- 1 主題名 心を伝える言葉 【内容項目 2-(1)】
資料名 かなちゃんへの手紙 (出典 彩の国の道徳「みんななかよし」 埼玉県教育委員会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目2-(1)「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。」ことをねらいとしている。これは、低学年の「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。」を受け、高学年の「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。」へ発展していく。

中学年では、相手の気持ちを自分におきかえて自らの行動を考えることができるようになってくる。そこで、これまでの生活を振り返らせ、だれに対しても真心をもって接することができるよう、親しい中にも礼儀があることを考えさせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、困っている友人がいれば、声を掛けたり助けてあげたりする優しい姿が見られる。しかし、優しい言葉をかけてあげることができる反面、感情が高ぶった時には乱暴な言葉を発し、相手を傷つけてしまうことがある。

以下、「うれしい言葉」「傷つく言葉」についてのアンケート結果である。

	うれしい言葉	傷つく言葉
どんな言葉があるか	・一緒に遊ぼう ・ありがとう ・上手だね ・頑張れ ・頑張ったね ・手伝うよ ・教えて ・大丈夫 ・嬉しい ・助かったよ ・すごいね ・おはよう ・いいよ ・ごめんね ・どういたしまして	・ばか ・アホ ・何してるの ・だめ ・嫌い ・うざい ・ドジ ・はぁ ・何 ・あっちへ行って ・こっちに来るな ・だまれ ・ダサイ ・死ね ・バカみたい
言われた時の気持ち	・嬉しい ・ありがとう ・いい気持ち ・心がポカポカ ・よかった ・やった ・あたたかい ・わあい ・楽しい	・嫌だ ・悔しい ・ひどい ・悲しい ・言い返したいけど、がまん ・むかつく ・もう学校行きたくない

これらの結果から、二つの言葉を比べると、うれしい言葉が多く挙げた反面、傷つく言葉も少なくないことが分かる。実際に傷つく言葉を言われたことは少ないという児童も、日頃の生活の中では傷つく言葉を聞いていることが多かった。「ばか」「死ね」「嫌い」など、直接的な強い言葉もあるが、「何で」「何してるの」という、普段の会話の中で使われている言葉も傷つく言葉に挙げている。本学級の児童は、言われた時に自分は傷ついているが、相手の気持ちを考えた言葉遣いをするところには至っておらず、言葉遣いにおける善悪の判断ができていないことが分かる。

(3) 資料について

本資料は、遊ぶ約束をしていた仲よしのかなちゃんが約束を破ったことに腹を立てた主人公が、悪口の手紙を書くところから始まる。自分で書いた言葉にドキッとしながらも書くことを止められず、かなちゃんの机の前に立つ。手紙を入れようか迷ったが、結局手紙を入れることはできなかった。主人公がかなちゃんに手紙を書いたときの気持ちや、机の前で立っているときの気持ちに共感させ、真実を知ってからの主人公の心の変容を考えさせたい。また、お母さんの「言葉って、大事よね。」という言葉から、相手の気持ちを考えた言葉が大切であると感じとらせ、ねらいとする価値に迫りたい。

3 研究テーマとの関わり

本校の研究主題

『豊かなかかわりを通して、
よりよい自分、よりよい生き方を求める児童の育成』

中学年のテーマ

「友だちの考えに耳を傾けながら、自分の思いを素直に表現し合い、より深く自己をみつめることができる道德の時間」

【視点1】児童の実態を生かした授業の工夫

- ・アンケートを行い、導入で自己の日常を振り返らせることで、めあてに迫るための意識を高める。

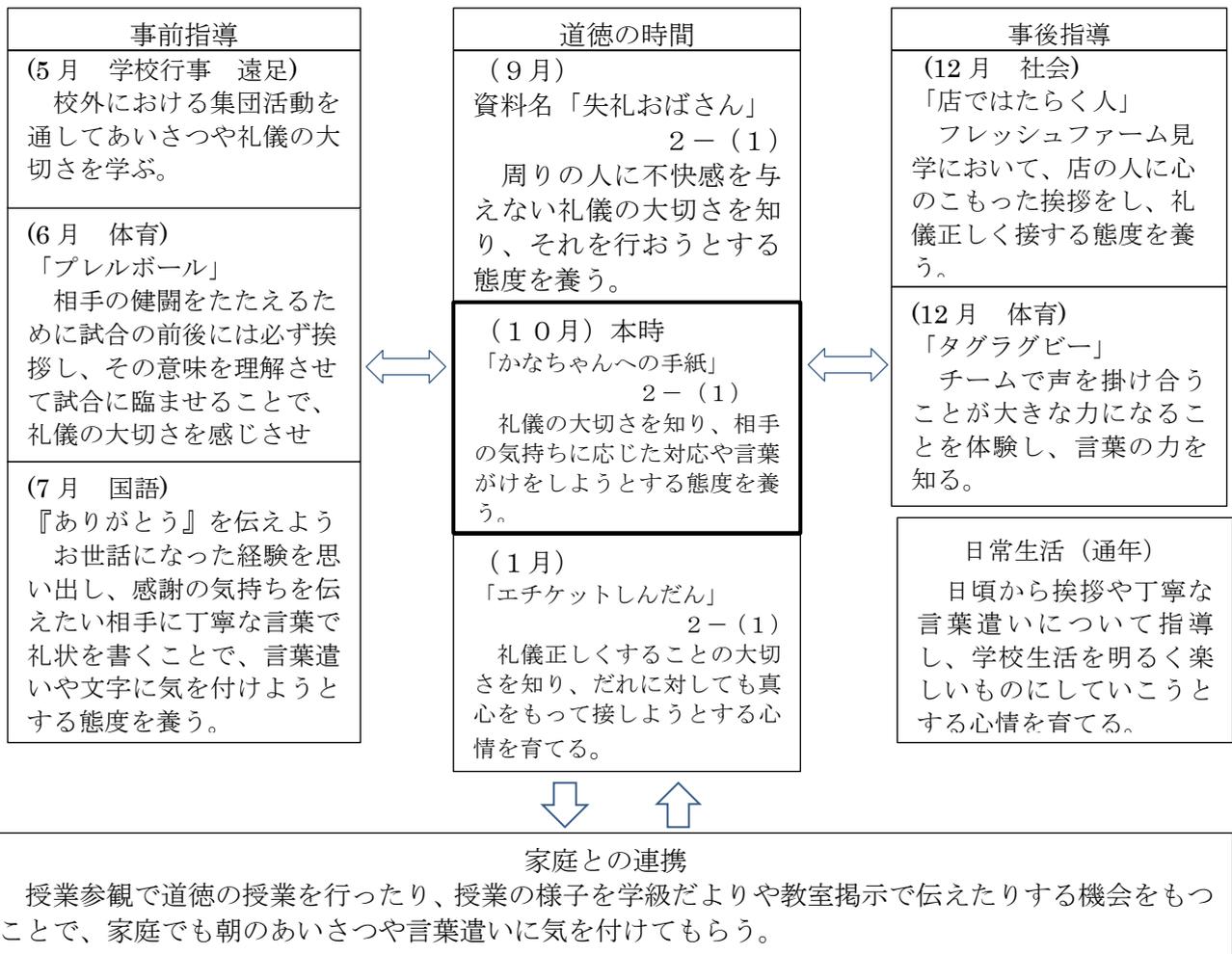
【視点2】自分の思いを素直に表現するための工夫

- ・挿絵の主人公の表情に変化を付けることで、主人公の気持ちに入り込んで発表できるようにする。
- ・グループでの話し合い活動を取り入れることで、全体では意見が言えない児童でも発表の場を設け自分の考えを伝えたり考えを深めたりすることができるようにする。

【視点3】より深く自己を見つめるための工夫

- ・展開の最後を書く活動を取り入れることにより、自己を見つめる時間を設ける。そして、これまでの経験を振り返りながら、これからの生活に生かせるように考えさせる。また、発表することにより、一人の考えを他の児童に広められるようにする。
- ・板書で色を使い分け、心の動きが分かるようにすることで、一目で振り返りができるようにし、自分の経験と重ねやすくする。
- ・自己の振り返りでアンケートを提示することで、より自己を振り返りやすくする。

4 他の教育活動との関連



5 本時のねらい

礼儀の大切さを知り、相手の気持ちに応じた対応や言葉掛けをしようとする態度を養う。

6 学習指導過程

段階	○学習活動 ・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価	時間
導 入	○言葉についてのアンケートの結果を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなにたくさんあるんだ。 ・私と同じだ。 ・この言葉を言われたらいやな気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言われてあたたかくなる言葉と傷つく言葉、両方あることをおさえる。 	3分
展 開	○資料について知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や短冊でしっかりおさえる。 	10分

	<p>主人公・・・わたし 相方・・・かなちゃん、お母さん 条件・状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしとかなちゃんは仲良し。 ・わたしはかなちゃんと遊ぶ約束をしていたが、かなちゃんの都合で遊べなくなり、けんかをしてしまった。 ・わたしの言葉を聞いて、かなちゃんはプイッと教室を出て行ってしまふ。 <p>○資料の判読。</p> <p>○話し合いたいところを発表する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの気持ちについて考えながら聞くように助言する。 <p>★主人公は、どんな気持ちか考えてみたいという意欲がもてたか。(発言・観察)</p>	
<p>展開</p> <p>ふかめる</p>	<p>○話題について話し合う。</p> <p>1 悪口の手紙を書き、机の前に立ったとき、わたしはどんなことを考えていただろう。</p> <p>2 かなちゃんから電話があったことを聞いて、思わず座り込んでしまったわたしはどんな思いだっただろう。</p> <p>3 お母さんの言葉を聞いて、泣きながら手紙をちぎったわたしはどんなことを考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かなちゃんのばか! ・かなちゃんのせいだ。 ・わたしは悪くない。 ・どうしよう。 ・本当に渡しているのかな。 ・手紙を見てかなちゃんは どう思うだろう。 ・かなちゃんを傷つけるかもしれない。 ・かなちゃん、ごめんね。 ・手紙を入れなくてよかった。 ・入れていたら大変なことになっていた。 ・友達でなくなってしまったかもしれない。 ・あの時言ってくれたらよかったのに。 ・こんな手紙、書かなければよかった。 ・さっきの言葉を取り消し 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の不満やいらいらをぶつけるために悪口の手紙を書いた主人公の気持ちに共感させる。また、その手紙を机の中に入れてられず迷う心にも触れ、主人公の心の葛藤を考えさせる。 ・怒っていた時にはかなちゃんの気持ちを全く考えず、「自分は悪くない」と自分本位になっていた主人公の気持ちに気付かせる。 ・自分の言葉を深く後悔する主人公の気持ちに寄り添い、相手 	<p>22分</p>

展開	ふかめる	<p>ていただろう。</p> <p>4 わたしは、かなちゃんにどんな言葉で気持ちを伝えたいだろうか。</p>	<p>たい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり入れなくてよかった。 ・よく考えてから言葉を言わないといけないんだ。 ・かなちゃんの気持ちも考えればよかった。 <p>・ひどいことを言ってごめんね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい言葉 ・相手を傷つけない言葉 	<p>の気持ちをもっと考えればよかった、という思いに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉は大切であるということに気付けるよう、小グループの話合い活動を取り入れる。 <p>☆相手のことを考えた言葉が大切で、親しき中にも礼儀が必要であると感じることができたか。(発言・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えた言葉が大切であると気付かせ、自分の心を伝える言葉を考えさせる。 	
	みつめる	<p>○自己を見つめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を振り返りながら「言葉遣い」について考えたことを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで相手を傷つける言葉を言ってしまったけど、うれしくなる言葉をたくさん使いたい。 ・仲のいい友達や家族でも、言葉遣いに気を付けようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を振り返りながら、今日の学習を通して考えたことを書かせる。 <p>☆今までの自分を振り返り、相手の気持ちに応じた対応や言葉がけをしようとする気持ちをもつことができたか。(発言・振り返りカード)</p>	7分
終末	あたためる	○教師の話聞く。		<p>☆これからの生活に生かそうと考えている。(観察)</p>	3分

7 評価の観点

○児童側の観点

- ・主人公の気持ちに共感して、自分なりの考えをもつことができたか。(発言・観察)
- ・礼儀の大切さを知り、相手の気持ちに応じた対応や言葉掛けをしようとする気持ちをもつことができたか。(発言・振り返りカード)

○教師側の観点

- ・児童が主人公の気持ちに共感できるような板書や発問の工夫ができたか。
- ・授業を通して、児童がどんなことに気づきを得られたかを、適切に評価することができたか。

8 備考

(1)板書計画

もう一度、かなちゃんへ手紙

- ・ひどいことを言ってごめんね。
- ・優しい言葉
- ・相手を傷つけない言葉。



言葉って大事よね。



- ・こんな手紙、書かなければよかった。
- ・さっきの言葉を取りけしたい。
- ・かなちゃんの気持ちも考えればよかった。
- ・よく考えてから言葉を言わないといけないんだ。

思わずすわりこんでしまった

- ・ごめんね。
- ・入れなくてよかった。
- ・入れていたら大変なことになっていた。



かなのバカ!!!
もうぜったい遊ばない!



- ・ばか!
- ・かなちゃんのせいだ。
- ・わたしはわるくない。
- ・どうしよう。
- ・本当に入れていいのかな。
- ・手紙を見てどう思うだろう。
- ・かなちゃんをきずつけるかも。

つくえの前に立っている



かなちゃん

わたし



けんか

- ・なかよし
- ・遊ぶやくそく

かなちゃんへの手紙



お母さん

(2)資料分析

スタートの条件・状況 主人公：わたし 相方：かなちゃん、お母さん

- ・私とかなちゃんは仲良し。
- ・私はかなちゃんと遊ぶ約束をしていたが、かなちゃんの都合で遊べなくなり、けんかをしてしまった。
- ・わたしの言葉を聞いて、かなちゃんはプイッと教室を出て行ってしまう。

《話題につなげたい場面》

《動き、気持ちの変化、関わり合い、キーワード等》

